

花折紙
天

諸家評判記
 ○ 戲作 花折紙
 ○ 諸宗評判記
 ○ 医者評判記
 ○ 京都名物評判
 ○ 三都学士評林
 ○ 諸藝評判記

— — 二 — 三 三

特別
 A13
 1962
 1



1962

戲作評判花折紙上

狂言筋ハ

弓矢 二階髪流元七日

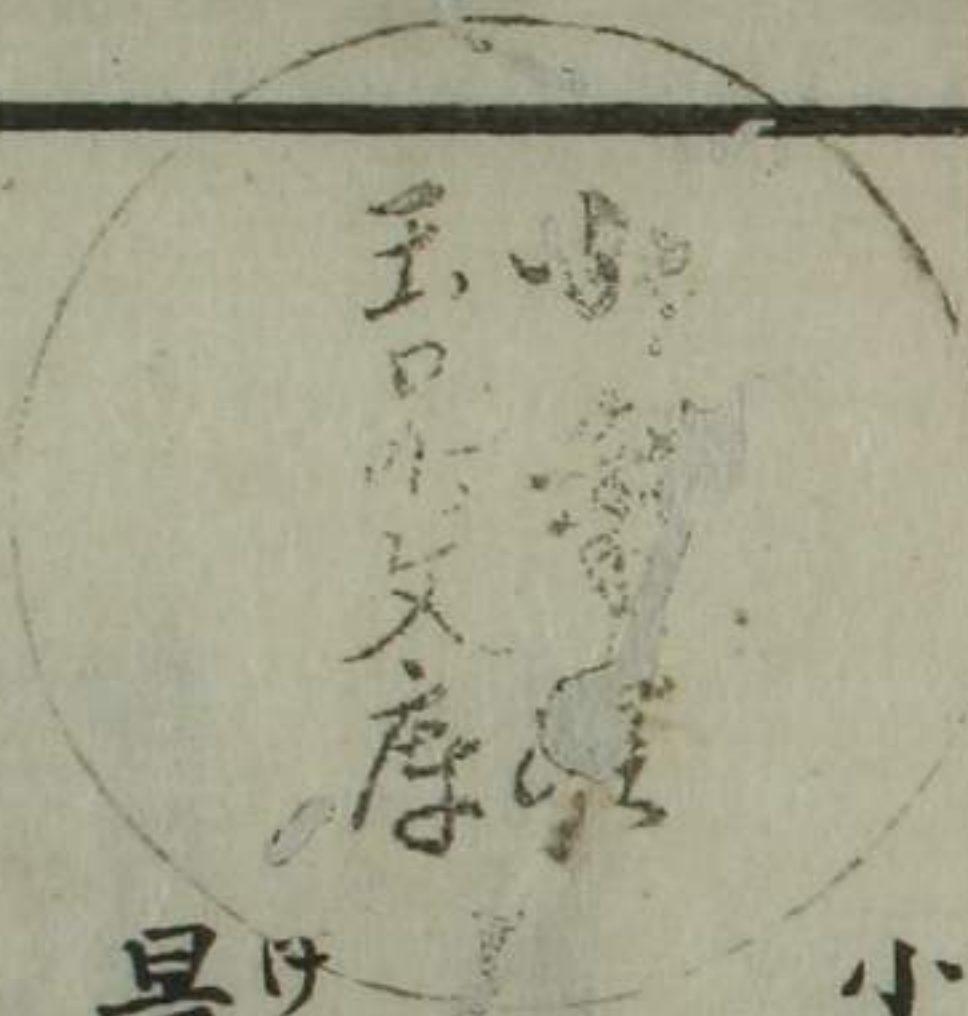
山谷堀紙屑洗橋

小道具

三角雲

景物

八朝雲



巻

上

狂言筋ハ

身振部屋紅葉袋

海晏精舎楓葉符

小道具

日覆月

景物

元六夜

狂言筋ハ

居風呂揚素面色

妙法蘭若素足詣

小道具

雨音車

景物

龍骨車

まふのまふ
狂言筋ハ

ちんこのまふ
寄場三夜鉄橋

とこがかりのまふ
富田八幡山三鐘

こまのまふ
小道具

あまのまふ
歩行板

りつざり
景物

まんのまふ
棧道梁

こまのまふ
後序

まふのまふ
まふのまふのまふ

まふのまふ
まふのまふのまふ

まふのまふ
まふのまふのまふ

まふのまふ
まふのまふのまふ

まふのまふ
まふのまふのまふ

まふのまふ
まふのまふのまふ

まふのまふ
まふのまふのまふ

魁首たる文士の
見識の父子者清
穆也乃博覧
多識修其學
博學洽民十文
屋の親すい衆
の貴敬を予
ふん貴敬を予
ふん貴敬を予

此れが評判にせ
終る全書三冊の
一冊と云ふは
文珠の智慧
を人として一
部を
その
三部地

をあしはだのまの
 新板あまの
 他意裁とや
 錦持
 志



いぬ夢師のちる

戲作評判花折紙

○惣巻頭

△又立名あはまのたのこ

極上吉 傾城虎之巻 金魚作

○立役之部

極上吉 甲八手戀更 誠作

上上吉 三教 色 三和作

上上吉 二日酔大入 金魚作

上上吉 惠比良梅 誠作

いさちをさめくおとしのこ

上上吉

客衆一筆表 振々作

あつてうらちあつていふとよきとせとせ

上上吉

桂良王子一九作

仕立もかきくものそとらへんかきりし

上上吉

鈍子戯語 六飯喰作

あつとらへんかきくものそとらへんかきりし

上上吉

南宮文集 跡浅作

うらへんかきくものそとらへんかきりし

上上吉

搭子戯語 振々作

印よの人の身もくせとせとせあつとらへんかきりし

上上吉

客衆肝照子 京傳作

うらへんかきくものそとらへんかきりし

上上吉

廓大 帳 同作

まう時をゆくかきくものそとらへんかきりし

上上吉

真女意題 一カ多作

かきくものそとらへんかきりし

上上吉

通仁枕言葉 振々作

マカレいゆきまよりのつたあつとらへんかきりし

上上吉

美地蟻壳 同作

あつてゆきまよりのつたあつとらへんかきりし

上上吉

居續借金 同作

あつてゆきまよりのつたあつとらへんかきりし

上上吉

甲驛新語 京傳作

あつてゆきまよりのつたあつとらへんかきりし

上上吉

契情二筋道 谷我作

あつてゆきまよりのつたあつとらへんかきりし

上上吉

吉原楊枝 京傳作

あつてゆきまよりのつたあつとらへんかきりし

上上吉

曾我糖袋 京傳作

あつてゆきまよりのつたあつとらへんかきりし

上上吉

白ひ 京傳作

あつてゆきまよりのつたあつとらへんかきりし

上上 色講釋一作

うぬほれをりふまはるるまき紙

上上 文選卧坐在明作

名代子あかも名んのりきうび

上上 辰巳之園中野言作

大しりひあうらうしふあう年紙

上上 賣花新驛似山作

釣うし喉とひりさりあふるふん

上上 取組手鑑墨本茶作

あんねんはうまこのまん砂糺うも

上上 遊儂窟烟花詩傳作

狂言うまかたきーつれこきー

上 郭通遊子藍江作

ひりし雨落しきりくま小こん

上上 深川新話其泉作

いさハハお地乃

上上 疇昔茶唐松尾作

けろつ子ふいまぢをゆ子こ

上上 良夜静極善川作

こはの大ワをぎでいけのる子人

上上 公羽曾承振發作

三津の丸と本丸の故をちしこうらこ

上上 曾之程谷家作

大さんぞうはたの 小くゆ切

上 美南土窟住色至作

アろいあふまをやくらよこ

上 深川半習紙茂内作

廊敷可佳妓 風雨作

上 面羨夢通身廓鼎

大通 契諾 鈴成作

上 二ヤニノメ馬吞 一上 鯉池全盛新 雲

上 品川楊枝晋文 一上 満和志栂 在英

上上

廓節用ニハ

上戸

猶射羅子子鹿鹿

上戸

猶之卷谷系他

上

通人講釋強異野

上

學通三客冬為他

上

中洲雀冬為他

上

金錦三調傳子孫他

上

一目土堤四出母他

上

中洲花冬為他

上

風倍砂拂傳強異野

驛路雀冬為他

上

品川呼子鳥強異野

上

新地果生年強異野

上

三有金強異野

上

大直冬為他

一上多可論冬為他

上上書

其アニ力中橋作

親父方
之部

系上書

聖遊廓無名氏

上上言

一夏千金金魚作

上上

傾城極秘卷冬為他

上

契情冬為他

上樂女好子 山蝶 一上 胡蝶夢 大亭

道外方之部

上上吉 道中粹語録 百巻作

上上吉 福神粹語録 百巻作

上上吉 世説新語茶 百巻作

上上 外地臭意 百巻作

上上 惠世物語 百巻作

上上 根津見夜 伍面作

上上 上公大女太言 大久

○若女形之部

上上吉 將基啓蒙 戎作

上上吉 龍志夜話 戎作

上上吉 廓文章 戎作

上上吉 深川拜見 房信作

上上吉 意氣之口 房信作

上上吉 粹町甲園 房信作

上上吉 風俗通 房信作

上上吉 婦衣軍紫麩 房信作

上上士 坡女皮肉論 合之儀

上上士 廊 癖 岩之化

上上士 定家文庫 裁作

上上十 中街艶談 殿座化

上上十 松登妓話 貞化

上上 言告鳥 長化

上上 郭之櫻 日化

上上 比翼の紫 娘化

二ツ 藩 園 女香化

上 山下玲作 子化

上 音羽 滝 意化

上 安富富魂短 西奴化

上 契國策 花名化

上 上 飛後佳女類 里舟 上 傾城物噺 百馬

上 上 五藏知理南朝 上 燈 竜辨 以金系

上 上 梯 妓 近 志 海 上 音 揚 八 柳 柳 柳

上 上 四ツ之谷 名 受 上 折 卷 扇 笑 金 名

卷軸

上上吉 虎溪三笑 藝作

○若石衆方之部

形をばさすももりあともけり大長

虎

上上

上上

上方深文話 宮好作

上

玄 經 修雲作

上月花陳情戲文 上 尚世尼極宗妙三

○色子 子後 之部

上上

娼妃地理記 寺三作

上上

傾城 鑄 宮澤作

上上

湖都酒美撰 寺三作

上上

新造圖彙 寺三作

上

烟花湯筆 辰作

一上 大國秘傳 卷中 一上 卷之末 耕三

○慈卷軸

上

書

遊子方言 田舎 老人作

こゝろおののけいらく

頭取之部

血

異素 六北 嬉齋作

巴

兩巴 厄言 遊戯作

華

華運 遍高 散人作

當

當世道 遍記 天世 老人作

喜

柳巷 詭言 寺三作

手

手官 智惠 鏡 葛十作

無

無頼 通説 法 春町作



百花評林 探巻作



客衆評判記 焉馬作

いふまゝて板えぬをひとつ
後いふせうこつもあつた

目かこさへ羽をのこるは乃

千代よこ

あめあせうとあんく

惣計 百七拾一冊

以上

凡例

一 凡文字舎自笑作て後者評判
記あり唐土の月且の評よあつひく
ををあめると

一 小冊のよむ中子あつひあつひ評判
記あり柔白の能優風と兼書
道一乃たつひ是あり

一 け戯作評判記なるや甚だしく
拙の差別立段女形の品にありて
くつおハ極上を者より上とあつ
書しあめれとらん人本名を信
しの子分のと世境をのめると
者三人あつた此光をのめると
いつていそ甲この運とあつた
天子御座ると

以上

大通羽おの長物波儒洋く
道成く一巻をいづくは

日本むちや修好の夏実

あま津ありとすう若者よりく

いづく今ハむしりいふまじも

おとろり役者おんともあま若

州分の御言屋もゆあくまてハ市

川宗らぬ女形ていさ浪あやのそけ

るてい浪音へおん人そあうく今

とらの役者のつくくもてををぬ

とゆきそそそそそそそそそそ

あまこまおれおれおれおれおれ

トあうりて時とふあふ今時のい

をたすそそそそそそそそそそ

藤を柳あけ一落野まらりい

いまち通の修好買のむいおれし

まめめけふく天戯作者は命し

小さのあれれをあま一んそのあ

俗をそんをあま子いあしそくふ

つうそあああれどなま子あれれ

圓くそその意味をあまの如師買あ

せどももろその紙のましてあれれ

そそそそその極をてあまはそそ

奥義をさあめん去切屋強盗を

切をらひま志うとそこあま同

道をとめてあま一人のけさくそ

あまこまあまあまあまあまあま

あまこまあまあまあまあまあま

あまこまあまあまあまあまあま

あまこまあまあまあまあまあま

あまこまあまあまあまあまあま



殺伐かきく庵ありいまいかおが浮世を
 難くばうが風雅とおらうをささく
 かんがいのふ海ありこの二海さらんを
 たのめえあやまの辨別をある
 とらうにほうてめもてつこめく
 るんかんしといふはこゝろの
 あんでもおもしろいをわらわ
 うこらわいおもへる大いなる
 おろ海難信ちまきまのありあ
 ぶあうやあうまきまたらそれうらそ
 子まうりして小らの浮世を
 あけぬのこの物ねあはれのおら
 あらけりるこらわらうてつこめく
 流てられをのまのなほ
 なるま

